

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900197		
法人名	医療法人恵愛会		
事業所名	グループホーム誠愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田73番地1		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	令和6年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念でもある「その人らしさ」の表出を支援し、入居者様個々の状態に応じたケアの実践に努めています。また、介護の仕事を通し命を守る仕事とし、小さな変化に気づき、入居者様と笑い、共に学びあえる環境づくりをしています。隣接が母体病院であることから、24時間医療体制が整っており、常に安全・安心に過ごしていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院が隣接していることから、利用者の体調変化に迅速に対応でき、相談、助言等で連携が図られています。利用者の通院には職員が対応しているため、情報共有をスムーズに行うことができ、安心して生活できる環境といえます。コロナ禍によって途絶えていた地域との交流の機会も増やしていけるよう取り組んでおり、職員が利用者と一緒に市のイベントに参加したことを機に、利用者が楽しく、有意義な暮らし方ができるよう、理念の共有、実践に向けて努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者、管理者、職員、共に理念を共有し、理念に基づいた支援を行うことができるよう常に意識し、実践している。	職員は利用者に声かけしながらその人の理解に努め、利用者の暮らし方の充実に向けて理念の実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域関係者の方々が参加してくれるようになり、情報収集と発信に努め、地域との繋がりが図れるよう取り組んでいる。	コロナ禍にあった影響で地域との交流が少なかったものの、ホームの催しにボランティアの来訪がある等、少しずつその機会を持ち、また、運営推進会議を通じて地域との繋がりをつくっていかうと努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染対策継続中のため、交流できていないが、解除後には交流が持てるよう努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域支援包括センター、市役所職員、地域関係者の方々に出席いただき会議を行っている。施設の状況説明や行事等の報告を行い、参加者のご意見を参考にし、サービスの質の向上に努めている。	地域の方々からも多くの意見が出されています。ホームと双方向的な意見交換の場とすることでサービスの向上に繋げていけるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。また、法人事務局に相談しながら連携を図るよう取り組んでいる。	ケアマネ会議への参加が行政と情報交換の場ともなっており、ホームの情報発信の機会にもなっています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を設け、定期的な研修を行い、身体拘束、虐待防止に努めている。日中は玄関は施錠せず、思いの傾聴に努めている。	研修等を通じて職員の意識の向上に努めています。特に排泄時や日常の関わりの中での言葉遣いには気をつけており、皆で注意し合うようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、介護支援専門員が関係者と話し合い対応できるよう支援している。また、職員間で新しい情報や知識を共有し、理解を深めるよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、利用者のご家族に十分な説明を行い、ご家族からの質問にも丁寧に答えながら、信頼関係の構築に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、要望、苦情等、いつでも受付し対応している。意見を前向きに受け取り、運営に反映するよう努めている。	家族から苦情や具体的な要望等が出されることは特にはないようです。今後は家族会とも意見交換できる機会にできるよう、ホームの催しを徐々に再開したいと検討しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員の意見や提案は適時受け入れている。また、必要時は法人本部と話し合いをする場を設けるよう努めている。	職員の意見、提案で介護備品の設備補充が行われる等、業務環境の改善に繋げており、具体的に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はほぼ行っていない。外部研修等に積極的に参加し、他事業所の方と情報交換を行い、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を決して否定せず、十分に傾聴し、他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることができるよう支援している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事、不安等のような相談にも耳を傾け、良好な関係が構築できるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分で行っていただき、家事や清掃等の作業は出来る範囲で共同で行っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時の際、施設での生活状況などを報告し、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。また、本人から訴えや希望があった際には、ご家族へ連絡を行っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族との面会だけでなく、本人の生まれた場所、馴染みの人や場所との関係が途切れることがないよう、本人にとって大切なものとして支援していきたい。	生まれた場所をドライブルートにして安心していただいたり、制限を設けている状況ではあるものの家族との面会も可能にしています。訪問理容の方とは顔馴染みになっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、良好な関係を構築できるよう支援している。また、トラブル等は事前に回避できるよう、職員が見守っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後でも、ご本人やご家族からの相談があった場合は、いつでも受け入れる体制をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の意向や思いに寄り添い、その人らしい生活が送れるよう支援している。	普段のケアや会話から利用者の思いの把握に努め、連絡ノートや申し送りで情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、その他の関係者から情報収集を行い、これまでのライフスタイルの把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、ご本人、ご家族、他職種の意見を十分に取り入れ、利用者の思いが反映できるケアプランを作成している。	日常的に利用者の状況について意見を交わしている他、管理者が職員に聞いて行ったモニタリングを基に、介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りで、個別の変化を伝え、情報を共有しながら介護記録へ記入し、個別介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策解除後、地域行事へ積極的に参加したり、施設での行事に近隣住民の方々へ参加を呼びかけ交流を図っていききたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。ご家族の要望があれば、別の医療機関の紹介や相談にも対応している。	利用者は隣接する母体病院で受診しています。薬局とも良好な関係が築かれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について看護職との連携に努め、必要時は看護職より助言や指示を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師、看護師、介護職員が情報を文書で共有し、早期退院ができるよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時の説明で、状態の変化に伴う重度化の場合、ホームでの支援を説明・確認している。重度化し受診する際家族に同行頂き、主治医と今後を話し合い、その結果を受けチームで検討・支援をしている。	重度化した場合は医師が家族と話し合って意向を確認し、母体病院への移行支援が行われています。病院との連携は家族の安心に繋がっています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、全ての職員が閲覧できるようマニュアル作成しているが、実践訓練ができていない。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、非常食等の備蓄はできている。近隣機関、近隣住民の連絡網も作成されている。	今年度中にもう1回訓練を予定しています。BCP(事業継続計画)に基づいて訓練を行っていますが、地域との合同訓練には至っていません。	火災時の避難には近隣住民の協力体制ができつつありますが、協力してくれる方の訓練への参加によって抽出される課題とその解決のための検討を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した声かけを行い、プライバシーの保護も重視、状況に合わせた対応をしている。	言葉遣いに気をつけると共に不適切なケアにならないよう努めています。入浴時の異性介助については現時点では問題なく行われています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合った服装等を準備し、その人らしく生活できるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のそれぞれの好みを取り入れ、季節に合った食事を提供している。入居者の家事意欲を引き出せるよう職員と一緒に考え、支援を行っている。	食材の買い物に利用者が同行することはありませんが、できることを手伝っていただいています。職員は楽しい時間になるよう利用者に声をかけ、見守りながら同じテーブルで一緒に食事をしています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成、入居者の健康状態、嚥下・咀嚼状態に合わせ食べやすい大きさに切る、柔らかく調理するなど工夫している。摂取量は記録し、職員で共有している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後入居者の習慣に合わせ、口腔ケアを行っている。就寝時は義歯の洗浄・洗浄剤を入れ清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行為が自立している入居者が多く、排泄パターンを観察、認知状態に合わせ個々に応じた支援をしている。	排泄用品の負担に配慮しながら一人ひとりの状況を確認し、トイレでの排泄を支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で入居者の排便を記録し、排便がない場合は水分補給や運動など勧めている。主治医へ相談し下剤を処方して頂くこともあり、個々に応じて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくり入浴できる雰囲気づくりをし、羞恥心に配慮し週2回の入浴支援を行っている。体調不良時は清拭対応している。	リラックスした気分で入浴できるよう支援しています。利用者の状態に合わせてシャワー浴対応の方もいます。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを把握し、寝具や環境を整え、それぞれの生活習慣にも配慮している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとにファイルに薬情書を保管し、職員で共有している。変更があった場合も記録し周知徹底をしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話から、趣味や生活習慣を聞き、各々に合った支援をしている。また、興味を示した物事に対して取り組めるように支援もしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感が感じられるように、行事でドライブに出掛けたり、ホームの周囲を散歩している。また、公共施設への外出もしており、地域の行事にも触れる機会を増やしている。	コロナ禍で思うように外出もできませんでしたが、市のイベントに参加する等、その機会を少しずつ増やして行くことができるよう検討しています。普段はホーム周辺を散歩して外気に触れています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知状態により、金銭管理ができず個人での所持はしていない。必要物品等は家族へ連絡し、購入している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度をチェックし定期的な換気を行っている。居室は入居者が過ごしやすい環境を整え、朝夕でカーテンを開ける習慣を支援、生活リズムや整え、季節を感じてもらおうよう努めている。	掃除をするときに窓を開けて換気し、臭気がないように管理して快適さを保つようになっています。利用者は陽ざしが窓から入る明るいホールで調理の匂いを五感で感じながら、ゆったりした気分で過ごしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂ホールは、テレビや新聞、雑誌等あり入居者が自由に選び交流をしている。食席は決められているが、ホール内にソファを入居者が使いやすい場所に設置、自由に過ごしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用している物を家族より持参してもらい、自宅と同じような空間づくりに努めている。	室内はベッド、収納スペース、洗面台が備え付けられています。利用者それぞれがテレビや写真等を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安全に移動できるよう手すりを設置、居室・トイレ・浴室等がわかるようマークや名前を表示している。		